

氏名： 塩満 典子 (SHIOMITSU Noriko)  
所属：  
学位： 公共政策学修士 (平成 2 年, ハーバード大学行政大学院)  
Master of Public Policy, Harvard John F. Kennedy School of Government (1990)  
職名： 教授  
E-mail： shiomitsu.noriko@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

科学技術政策/男女共同参画/イノベーション/安全規制/研究倫理  
science & technology policy / gender equality / innovation / safety regulation / research ethics

#### ◆主要業績

総数 (7) 件

- Women at the Forefront of the Time: Challenges toward Next Decades, The 1st Korea-China-Japan Women Leaders Forum for Science & Technology, 103-114 (2008) (Seoul, Korea, Feb. 28-29, 2008)
- 理系白書シンポジウム「イノベーションを育む風土とは」(毎日新聞社等主催, 2007年12月2日, 於大阪; 12月9日, 於東京; 2008年1月4日, 東京朝刊 12-13頁 特集面)
- 科学技術社会論学会発表「科学技術政策における女性研究者の活躍促進策の変化と課題」(2007年11月11日, 於東京工業大学)
- 第5回男女共同参画学協会連絡会・分科会報告「男女共同参画におけるポジティブ・アクションー科学技術施策面から見てー」(2007年10月5日, 於名古屋大学)
- 内閣府男女共同参画局パンフレット作成協力「女性研究者の活躍促進に向けて」(2008年6月発行予定)

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

(1) 科学技術分野における男女共同参画の現状と課題  
国際的に見て我が国の女性研究者割合の少なさ、上位職に就くことの困難性等は顕著であるため、その要因分析・対応策の検討を行うとともに、PISA調査に見られる学習到達度の性差及び女子の理工系進路選択に係る態度・環境要因の分析等を行い、国際的な WISE 活動との対比・充足度の検討を行う。

その他、以下を対象にした研究を行う：

- (2) 若手研究者の自立のための環境・制度と必要施策
- (3) イノベーションに資するシステム改革と政府研究費を中心とした資源配分
- (4) 科学技術の安全規制とリスク・コミュニケーション
- (5) 研究者・技術者等専門家集団の職業倫理

(1) Current status and future of gender equality in science and technology  
It is internationally well-known that the percentage of female researchers of Japan is very low with comparison to those of EU and United States. It is also true that female researchers have difficulties to be promoted to professors or other leading positions. I study reasons for those and necessary countermeasures, and make the international comparative analyses on the differences in science and math literacy and motivation between girls and boys, and on-going WISE (women into science and engineering) activities.

I also study the followings:

- (2) Environment and system for the young scientists to conduct independent research to obtain tenure
- (3) System reformation and resource allocation to enhance innovation
- (4) Safety regulation and risk communication in science and technology
- (5) Professional ethics of scientists and engineers

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

これまでの文部科学省（科学技術行政）・内閣府（男女共同参画行政）における職業経験等に基づき、キャリアプランニングやジェンダーに係る授業等を通じて、学生・院生の科学的思考力や表現力の向上を図るとともに、社会的責任・社会貢献について考え、実践する力を醸成する。

一例として、公務員の役割と仕事について文系・理系の学生を対象にキャリアデザインの観点から演習等を行い、職業イメージを形成するとともに、政策の企画・立案・分析・評価能力とともに、アカデミック、マスコミ、製造業等の他分野でも応用可能なコミュニケーション力・実現力も高める。

Based on my experiences in Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (science and technology policy) and Cabinet Office (gender equality policy), I share the information with students on my career path, social responsibilities and images of public servants in government offices.

I also encourage students to conduct case exercises with regard to policy plan, doing, check and action (PDCA) for enhancing abilities on scientific way of thinking, expression, communication, negotiation and social contribution which are effective in many professional areas not only in public administration but also in academic, mass media, manufacturing industries, etc.

## ◆研究計画

女性研究者の活躍促進は、国際的に共通の課題であるとともに、我が国と労働価値観・家族文化観・女性の社会参画の現状等が類似している東アジア地域においては、特に国際協力や情報交流を通じて課題対応に取り組むことが重要であると考えられる。今後は、科学技術振興調整費・女性研究者支援モデル育成事業を実施している各機関のシステム改革効果、ワーク・ライフ・バランス等の働き方、子育て支援、リーダーシップ養成、女子の理工系進路選択支援等の現状も踏まえ、国際共同研究を視野に入れて研究を進めていく。

また、今後の日本社会において、新しい価値の創造（イノベーション）が重要であることから、特に、科学技術分野でのイノベーションを育む環境・制度、基礎的思考力・創造力・意欲等の個人的資質、人材育成・流動システム等について、日米の比較を中心に考察を深める。

## ◆メッセージ

お茶の水女子大学には、社会・家庭・地域など様々な分野で活躍している女性の先輩（ロールモデル）が多くいます。これからの日本では、女性が、国内でも国際的にも、いろいろな場面で、より多く意思決定に参加し、現在や未来にとって大切なことを決めていくことが求められています。ぜひ、本学で学び、知識と思考力と実現力を高めてください。